

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2375700933
法人名	株式会社 アイティーシー
事業所名	グループホーム 福住苑
訪問調査日	平成21年2月5日
評価確定日	平成21年2月19日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2375700933		
法人名	株式会社 アイティーシー		
事業所名	グループホーム 福住苑		
所在地	知多郡阿久比町大字福住字荒古67-2 (電話) 0569-48-8805		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年4月25日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 6人, 非常勤 14人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	平屋 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,100 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 申込金200,000円 一時金100,000円)	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費		300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 130 円
	または1日当たり 1,330 円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護 1	3名	要介護 2	7名
要介護 3	6名	要介護 4	1名
要介護 5	0名	要支援 2	0名
年齢	平均 81.17 歳	最低 70 歳	最高 88 歳
協力医療機関名	東ヶ丘クリニック、三井デンタルクリニック		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは入居者にやさしい介護と、おだやかな生活の支援を目指しており、職員はホームの理念とキャッチフレーズをケアの基本とし、日々実践に取り組んでいる。地域住民との関わり、交流も良好で、近隣に在住の職員もいて、入居者の急変時、災害時の緊急出動等、非常時の体制もできている。ホームは和風平屋造りの建物で、フェンスで庭を囲み、門扉はオートロックで施錠されているが、玄関は施錠されていない。施設内はバリアフリーで全館床暖房が施され、居室壁には緊急呼び出し用ナースコールや空気清浄機が取り付けられ、入居者の安心と快適な生活への配慮がされている。また、居室入り口には、分かりやすいよう目印をつけた、職員手創りの表札が掛かっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では指摘をされた課題は無かったが、ホームでは評価を定期的な見直しの機会と捉えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価について管理者は職員に説明をしており、自己評価には職員同士話し合いをしながら、全職員で取り組み管理者がまとめ、その結果の分析、対応はこれからの予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2カ月毎に開催され、民生委員、NPOもやい、関係市町村担当者、地域後見センター、地域包括支援センター、障害者総合支援センター、家族、管理者のメンバーで構成されている。議題はホームの現状、活動状況、外部評価、行事予定などで、メンバーから提言、質問もありホームの運営に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	半年毎に個人面談を実施しており、家族からの意見や要望、思いなどを聴く機会としている。また、家族の来訪時には、管理者、相談員が対応し、できるだけ家族が話しやすい雰囲気づくりに心がけ、忌憚りの無い意見が聴けるよう配慮している。意見箱が玄関に置かれ、リアルタイムに要望、苦情等を出すことができるよう配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設当初から、地域住民の理解、協力を得ることができ、良好な関係にある。町内会に加入して、回覧によって地域の情報を得て、積極的に参加したり、ホーム行事への参加を呼びかけ参加者もいる。ボランティアの訪問や地域の中学生の職場体験実習の受け入れを行っており、今後、地域の一員として尚一層の関わりを深めたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「人生は、自分の力を信じて歩いてゆく。人生は、支えあって共に歩いてゆく。福の住まう人生を歩いてゆく」の3つを掲げ、玄関の見やすいところに掲示している。ホームとして入居者が住み慣れた地域で、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいるが、理念の中にこうした地域密着型サービスに対する趣旨が含まれていない。		地域密着型サービスについて理解され、日常的に実践されていることから、理念の中に反映されることに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念とは別に「介護は仁なり、みんなに優しい思いやり」をキャッチフレーズとして掲げ、理念とともに朝礼、ミーティング等で話し合い、職員は理念を意識し共有している。また、職員は理念及びキャッチフレーズをケアの基本として、実践に活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設当初から、地域住民の理解、協力を得ることができ、良好な関係にある。町内会に回覧もあり、地域の情報を収集し、行事にも積極的に参加している。また、ホームからも行事等の情報を提供し、近所の家族が子供と一緒に参加したこともある。無断外出者について、地域に協力依頼はしていないが、徘徊者がいた時に、問い合わせの連絡があるなど、ホームが地域の人達に周知されている。地元の中学生の職場体験実習(3名、2回)の受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について、ミーティングで管理者から職員に、その意義や狙い等を説明している。自己評価は職員同士で話し合いながら、全職員で取り組んでいる。職員は自己評価を実施することによって、日常的に行っているケアを振り返り、見直す良い機会と捉えている。外部評価を受けることで、日常業務を再点検し気づかなかった所を見直すなど、ホームの運営及び、サービスの質の確保に反映させるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月毎に開催し、メンバーは阿久比町福祉課、半田市社会福祉協議会、知多地域青年後見センター、地域包括支援センター、地区民生委員、NPOもやい、障害者総合支援センター、入居者、家族、管理者と多彩なメンバーからなり、入居者が開会の挨拶を担当している。議題はホームの現状や活動報告、外部評価、行事予定などでメンバーからの提案、質問もあり、ホームの運営に反映させるよう努めている。議事録は請求書等と一緒に家族へ郵送する配慮している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者が運営推進会議のメンバーになっているため、常に連携を密にして、ホームから情報を提供し、助言、指導などを受ける関係が構築されている。入居者の家族に日常生活支援の利用者があり、担当者の来訪を受け、家族の了解の下職員も同席して話し合い、協働に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り「福住苑」を毎月発行しており、ホームでの出来事や行事開催時の様子などを、プライバシーに配慮しながら作成し、家族の他、運営推進会議でも配布している。家族の来訪時には、管理者、相談員が金銭管理や介護計画、近況など伝え職員からは入居者の日常の暮らしぶりや健康状態を伝えている。また、体調の変化や連絡事項のある時は、その都度連絡をし、家族の不安を取り除くよう努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎に個人面談を実施し、家族からの意見、要望、思いなどの相談を聴く機会としている。また、家族の来訪時には管理者、相談員が対応し、できるだけ家族が話しやすい雰囲気づくりに心がけ、忌憚の無い意見が聴けるよう配慮している。その他、玄関に意見箱が置かれ、リアルタイムに要望、苦情などを出せるよう配慮している。出された内容は、ホームで話し合い改善してサービスの質の向上とホームの運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はカンファレンス、朝夕の申し送り、昼のミーティングで入居者一人ひとりの状態を把握し、全職員で情報を共有している。これによって職員の異動による入居者への影響を最小限に抑えている。職員との引継ぎは十分期間を設け、入居者一人ひとりに合ったケアの習得に努めることとし、入居者への不安やダメージを防ぐよう配慮している。また、管理者は職員からの話を聞くよう心がけ、職員の心理的不安に配慮し、適切な助言、指導を行うよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の情報は職員に知らされ、内容によって主任や希望する職員が、業務シフトに合わせ参加している。参加者はミーティングやカンファレンスで研修内容を報告し、資料を回覧するなどして、情報の共有に努めている。また、その時のニーズに合わせた専門的なケアについて、協力医や看護師から講義、指導を受け、実践に反映させるようにしている。ホームとして、職員の経験に応じた外部研修や資格取得に積極的に支援することで、ケアに対する意識の高揚と質の向上を目指している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会や介護福祉士会、尾張地区グループホーム協議会、知多中央部会に加入しており、研修会や会議に参加し、ホーム運営、経営などの情報交換を行い、こうした交流を通じて、アイデアをもらうこともある。相互訪問には至っていないが、グループホーム立ち上げ予定者からの現場見学、実習依頼を受け入れている。職員から他の事業所との交流希望があり、今後取り組みたいと考えている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の家族、本人との面接、話し合いを重視してアセスメントを行い、ホーム見学に引き続いての1~2週間の体験入居を通じて、入居者が職員、ホームに馴染むことができるよう配慮している。入院や入所、在宅の利用予定者には管理者、主任が訪問し面接を行い、アセスメントを行うことで本人、家族の希望、要望、健康状態の把握に努め、利用者が安心して入居でき本人本位のケアの実施になるよう心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共に人生を送る者同士として、人と人との関わりを大切に考えており、年長者、人生の先輩として言葉遣いに配慮し、昔のことや経験したことを聞かせてもらい、教えられることも多い。園芸や畑作業、調理の下準備など、できることをやってもらい、できないことは補い合いながら、共に支え合う関係を築いている。職員は入居者からの感謝の言葉が励みになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの希望や意向は、日々の生活の中で、入居者とゆったり会話をしながら把握するよう努めている。入居者と共に生活をする中で、本人の言葉にならない思いを、行動や表情から職員は汲み取る努力をしている。こうした入居者の情報はミーティングや申し送りで共有し、入居者本位のケアになるよう配慮している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は本人や家族からのアセスメントと1~2週間の体験の状態についてミーティング時に職員、計画作成者、管理者とで話し合ったことを組み込んでいる。本人や家族と面談し要望を聞き完成させる。入居者が自分らしく暮らせるよう、意向やアイデアを介護計画の作成に活かしている。(カルタ取りや着物を着て踊りに参加するなど)</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の見直しは3カ月ごとに行っている。月1~2回のカンファレンスや1日2回の申し送り時に入居者の健康チェックや身体面、行動面に異変が見られた時には情報を共有する。計画作成者はその結果を介護計画のサービス内容に鉛筆で追加記入を行っている。3カ月に再度検討会議を行い現状に即した計画を立て直している。緊急時に把握できるように2カ月ごとに入居者の情報を記入している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携加算を取っている。認知症専門医に3カ月に1回往診があるが、検査等で受診する場合は本人、家族、職員も同行している。介護予防体操や嚥下障害予防のために歌を1日1回以上歌うなどの工夫を行っている。美容院はホームから依頼し月1回来訪している。入院時には週1~2回見舞いに行き、入居者の情報を伝えるなど配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にホーム提携医療機関の説明をして、入居者がかかりつけ医か提携医かを選択する。入居者の異常があった場合は管理者から家族に電話連絡をし情報のやり取りを行っている。歯科検診は月1~2回健診を行い治療の必要な入居者には治療を行っている。訪問看護は週1回、往診は月2回である。かかりつけの受診は家族が行い、ホームでの情報を手渡し、病院からの処方箋をもらい情報交換を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に本人、家族に「入居者の心身の状態が重度化した場合における対応に係る指針」について説明している。病状に変化が見られた場合は本人、家族、医師、看護師、管理者、職員で段階的に話し合い情報を共有している。看取りはまだ行っていないが、終末期における医療処置の対応や急変の際、全職員が対応できるように常時勉強しており受け入れ態勢が取れるように整えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居時に「個人情報に関する基本方針」「個人情報の利用目的」を説明し、個人情報に関する同意書を入居者、家族から取っている。各居室にユニットバスがあるので、トイレを失敗した場合はプライドを損ねないよう居室で対応するようにしている。また、介助する際には、職員は声のトーンに注意し入居者にゆっくりと優しく話しかけている。入社時に職員も守秘義務を交わしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームの予定時間を押し付けるのではなく、入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、その人に合わせた支援を目指している。起床や就寝時間は無理強いすることなく、本人のペースに合わせており、寝つけない入居者はリビングでテレビを見たり、職員とお喋りをするなど、安心と落ち着く時間を支援している。飲酒は行事の時に楽しめるよう配慮している。リハビリの一環として、体操をしたり、風船バレーを楽しむ様子うかがえた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食材屋を利用している。入居者と職員と一緒に調理の下準備(里芋や玉ねぎの皮むき、エンドウのさや取り)配膳、後片付けなど、入居者の個々のできる力を発揮できるように配慮している。畑で入居者が植えた野菜(大根、玉ねぎ、芋など)を収穫して喜んで調理している。季節ごとの器で食事したり、生花を飾ったりしながら雰囲気づくりも楽しんでいる。訪問時、おやつで「ぼたもち」を作り喜んで食べている様子が見られた。		調理から後片付けまで入居者の力を発揮できるように支援している。2つのテーブルのうち1テーブルだけ職員が食事をする。見守りの職員は立って見守りしている。職員と入居者が同じテーブルを囲み食材、献立、味付けなどを話しながら楽しく食事できる雰囲気に期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は華ユニットと雅ユニットと交代で沸かしている。毎日午前中に入浴ができ入居者の希望を聞いている。最低週2回は入浴している。拒否される入居者には「お風呂で一緒に歌を歌いましょう」など、個々に合わせた声かけをし、気分をかえて少し散歩に出かけてから入浴するなど工夫している。介護度が高い方には職員2名で介助を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、編み物、花の水やり食事の下準備、畑仕事、菜園、金魚のエサやりなどができる範囲で行っている。塗り絵、書道などの得意な分野は、入居者の気持ちを大切に吟味しながら満足感を持てるように努めている。らっきょう、梅干し、漬物、おはぎなどを作り入居者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は入居者の体調に合わせて近くの公園に職員と散歩に出かけたり、ホームの敷地内を自由に歩行できるなど短時間でも戸外に出る機会を作るように努めている。体調が悪い入居者以外は、ドライブで海や山へ出かけることで自然の移り変わりを五感で感じるように工夫されている。外出を拒否される方は興味がわく言葉かけをして入居者本位の外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は玄関に鍵をかける弊害を理解している。日中門は鍵をかけているが、玄関は鍵をかけず「入浴後外気を浴びる」と言って自由に出入りできるように見守りを行っている。職員は入居者が普段と違った行動を感じた場合は入居者の外出の癖や傾向をつかみ、職員が買い物や神社参拝など戸外に連れ出すなどの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中に地震、火災を想定した避難訓練を年2回実施している。入居者が怖がらないように「逃げるところを探しましょう」「ついて逃げますよ」と声かけしながら避難訓練が行われた。消火訓練後入居者が消火器の栓を外し室内が大変になったエピソードもある。夜間や人手が少ない時のことを考えて、近隣に住む職員が中心となり消防署立会協定を結ぶ方向で進んでいる。災害の備えに備蓄等も準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立以外に、近所からの野菜の差し入れでの1品やおやつを考慮してカロリーは控えめに設定され、栄養バランスにも配慮している。体重測定、血液検査は月1回行われ、身体に変化があった場合は医師に相談し指導を受けている。煮物はやわらかく食材の形を保ちながら食欲が出るように工夫されている。肉か魚の主菜が食べれないときは代替えを行っている。水分補給は1,200~1,400ccを目安に摂取している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く蘭の花や意見箱、椅子が設置してある。廊下は、手すりが付いて隅には休息できるようにソファや按摩機が設置され入居者が使用している。居間はテレビを囲みソファが設置され、テーブルもあり、大きな窓からは四季折々の自然の移り変わりが見られる。金魚を飼いエサやりや掃除は入居者が交代で面倒を見ている。壁には入居者一人ひとりの今年の抱負が掲示されている。床暖房がついて居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのベット、布団一式、家具、衣装ケース、本人の製作品、写真など持ち込んでいる。ベッドの枕ものにナースコールが設定されている。ユニットバスが付いており自分で管理できる方は洗面や排せつされるができない方は水道を切っている。床はフローリングになっており1名が豊の部屋を希望して住んでいる。居室の温度調整は職員室から各部屋ごとに管理できるようになっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。